|  |  |
| --- | --- |
|  | 小千谷旅する案内帳「千の谷の物語と雅色の郷　小千谷」 |

茶室「習静菴」

ガイド案内

* 小千谷の西、時水山麓の丘陵に平成13年「習静菴」と名づけられる茶室が移築された。
* この茶室は以前、安達医院の当主安達元昭家にあったもので、棟札には大正１２年（1923年）5月とあり、安達家37世修吉が三島郡片貝村ハ島（現小千谷市片貝町）の住居地に併設して建てたものである。
* これを小千谷の有志の人たちが無料で譲り受け、ばらすと損壊する恐れがあるので、そのままの形で移築し、一部手を加え、さらに平成19年（20０7年）現在の場所に移した。
* 茶室「習静菴」の号は軍医総監、日赤社長、貴族院議員、枢密顧問官などの要職を歴任した市内片貝町池津出身の石黒忠悳（ただのり）の命名で、石黒夫人久賀子は安達家35世基氏の二女で、石黒は36世基一郎らとらとともに信州松代の佐久間象山を訪ねたことがあり、修吉からすると石黒は叔父の関係になる。
* この茶室に併設する形で石灯篭が一基傍らにあるが、徳川11代将軍家斉公（文恭院）が逝去されたとき、その菩提を弔うため毛利家支藩清末藩（長門）一万石の藩主毛利元世が上野寛永寺に寄進したもので、その後変遷を経て安達家所縁、塩沢のやまだ織（株）氏のご好意により譲り受け、平成14年（2002年）にこの地に建て、さらに19年（2007）に「蔵」展示館の完成によりこの場所に移した。
* 蔵は小千谷市千谷川にある旧三星屋酒店星野家の寄贈によるものであり、庭石は、小千谷市上ノ山の大丹酒店大塚家のご好意によるなど多くの人の善意によって運営されている茶室です。

メモ